



長崎市立三原小学校

寄り合っ、寄り添っ、みんなて育、みんなて育つ～

「笑顔いっぱい！真剣いっぱい！感動いっぱい！の三原っ子」

MIHARA TIMES

令和5年9月13日発行

文責 校長 宮原 友彦

◆ なかよしタイムがスタートしました！

コロナ禍でコミュニケーション活動が制限されていましたが、「学校は楽しいところだ！」をスローガンに、なかよしタイムを復活させました。活動するには目的・ねらいがあり、そのことを意識して活動に取り組ませることで、子どもたちの成長を促す教育活動となります。

※三原っ子は普段の朝、中休み、昼休みなどで自然発生的に他学年の子どもを仲間に入れて縦割り活動をしている姿をよく見かけます。とてもよいところですが、「楽しく遊ぶ」という子どもたちの目的があるだけなので、なかよしタイムとは似て非なるものとなります。

なかよしタイムの目的は大きく次の3つです。

- (1) 異学年の児童と仲良く遊ぶことを通して、仲間意識を持たせ、高学年は低学年への思いやりの心を、低学年は高学年に対する感謝の心を育てる。
- (2) 遊びを工夫し作り出すことによって、集団で楽しく遊ぶことができるようにするとともに、高学年の自主性、主体性を向上させる。
- (3) 異学年間のふれあいを深め、望ましい集団を作る。

そこで、大切になるのは、最高学年である6年生の役割です。みんなの前で話をし、みんなが満足するように計画を立て、うまくいくようにアドバイスするなど、望まれる役割は多岐にわたります。また、6年生だけではうまくいきません。



5年生は6年生をアシストしながら、次年度自分たちが集団を動かすときにはどうすればいいか学び、他学年は協力しようという気持ちがないと、楽しく進めることはできないことを学びます。この活動に取り組むことで、休み時間や放課後に仲良しの友達と遊ぶときとは違い、発達段階や興味・関心が違う集団が仲良く、楽しく遊ぶにはどういうことに気をつけることが大切なのかを学ぶ貴重な体験となります。もちろん子ども任せにしてしまうとうまくいかないグループも出てきますので、それぞれのグループに担当教師を、「アドバイザー」として配置しています。困ったときや失敗したときの振り返りの際、アドバイスをもらうことで、さらに考えが深まり、配慮がいきわたるようになってきます。

そうやって年間を通して、目的(1)(2)(3)が達成されるよう進めていきます。これもコロナ禍でできなかった大切な学びの一つだと考えています。



特に高学年の子どもさんがいらっしゃる方は、「なかよしタイムはどうだった？」と家庭での相談相手になっていただければと幸いです。学校と家庭で、ともに育てていきたいと考えています。

三原に吹く風

夏休み作品展が先週で終了しました。今年も力の入ったいろんな作品があり、驚かされました。以前ほど、「宿題」として強制されることはなくなりましたが、その分、「自分の興味・関心」に基づいた作品が増えて、クオリティの高さに感心させられることが増えたように思います。

ご参観いただいた保護者の方、足を運んでいただいて、ありがとうございました。



宮原のつばやき

明日より6年生と一緒に修学旅行に行ってきます。天気がちょっと心配なのですが、何とか全員揃っていけそうです。私が小学生のときは熊本城でした。今も覚えているのは、そのときのバスの中で友達と楽しく過ごしたり、夜のホテルで友達と秘密の話をしたりと、人と関わったことばかりです。(一生懸命内容を考えてくださった当時の先生方には大変申し訳ないのですが…(˘-˘)) 楽しい修学旅行になるように、熱中症予防も含め、安全・安心第一で行ってきたいと思います。